

28PA-pm071

薬局におけるデッドストック医薬品の有効活用に関する研究

○中村 武夫¹, 伊藤 栄次¹, 蒲谷 亘², 増田 信也³, 佐藤 優子³, 江口 えり³ (¹近畿大薬, ²蒲谷薬局, ³リバイバルドラッグ)

【目的】 医薬分業の推進において薬局が抱える問題として、後発医薬品使用の推進による在庫品目数の増大や長期投与への対応のための在庫数量の増加に伴うデッドストックの発生と使用期限切れ医薬品による損失がある。デッドストック医薬品が使用期限切れとなって廃棄されることは、薬局経営のみならず社会的にも大きな損失である。そこで会員薬局から再利用願いのあったデッドストックやスリーブ状態になった医療用医薬品について、2013年度分の集計を行った。

【方法】 2013年度に会員薬局より送られてきた再利用願いのあるデッドストック医薬品を検品後、web掲載したものについて、件数、薬価総額、使用期限までの年数等について集計した。なお2013年度の会員薬局数は年度初め769、年度末944であった。

【結果および考察】 再利用願いのあったデッドストック医薬品の件数は約19,000件であり、先発医薬品が約80%を占めていた。薬価総額に換算すると6,000万円強に相当し、その90%は先発医薬品であった。デッドストックとなっている医薬品の数量は、錠剤76万錠、カプセル剤11万カプセル、液剤230リットル等であった。またweb掲載後から使用期限までの年数は平均1.54年(最大4.81年、最少0.04年)であった。デッドストック医薬品が使用期限切れとなって廃棄されることは医療資源の大きな損失である。薬局におけるデッドストック、再利用を希望する医薬品の情報を公開することにより購入を希望する薬局に売却できれば医療資源の損失防止にもつながる。今後、詳細なデータ分析により、デッドストック医薬品の有効活用に関する知見を得たい。